

発電所敷地～敷地近傍の断層評価について 当社の評価を了承いただきました

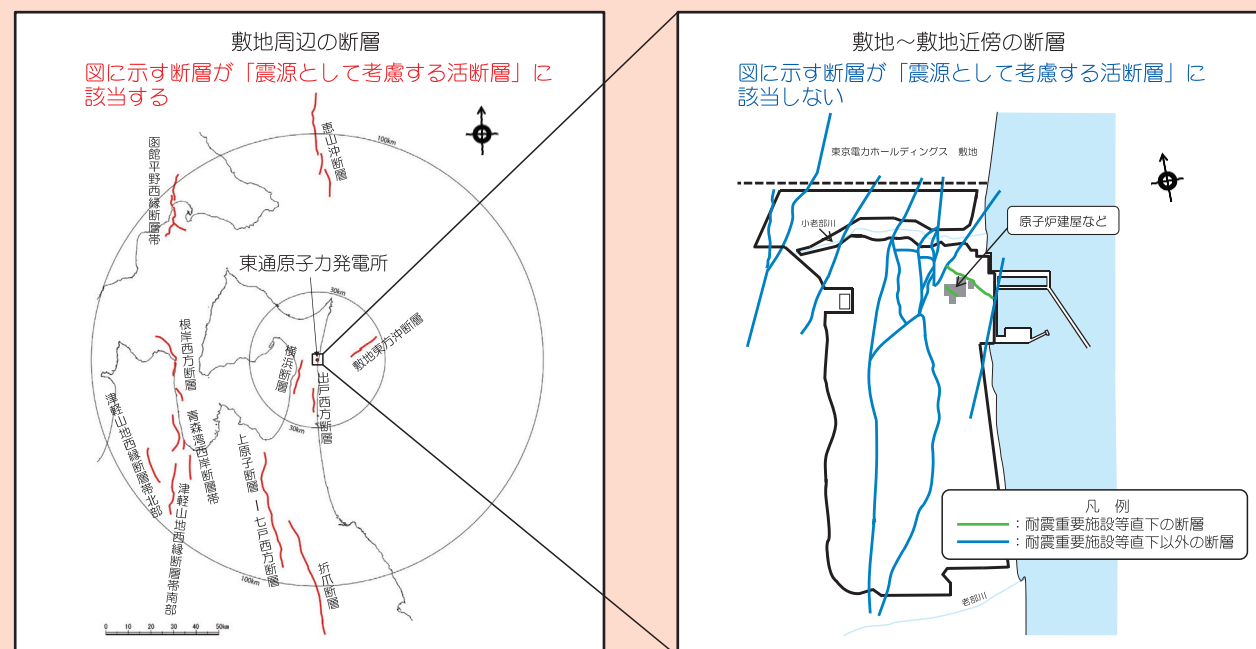
7月17日に開催された原子力規制委員会の審査会合において、敷地～敷地近傍で確認される断層などは「震源として考慮する活断層」に該当しないとする当社の評価を原子力規制委員会に了承いただきました。これにより、断層評価に関する審査が一通り終了しました。

当社としては、これまで積み重ねてきた膨大なデータをはじめ、2019年3月から10月にかけて実施した補足調査の結果などを丁寧に説明し続けてきたことが、今回の評価につながったものと認識しております。

今後は、基準地震動※や津波、火山事象などの項目についてもなるべく早期にご理解を頂けるよう、引き続き審査会合に適切に対応するとともに、審査結果を反映した安全対策工事についてもしっかりと取り組んでまいります。

※ 基準地震動…施設の設計や安全確認の基準となる地震の揺れを表す値

【断層分布図】



《敷地～敷地近傍の補足調査》



起震車による反射法地震探査
(六ヶ所村泊地区)



ボーリング調査
(東通村小田野沢地区)

油火災消防訓練を実施しました

7月30日、油火災消防訓練を実施しました。

今回の訓練は、構内の軽油タンクで火災が発生したという想定のもと、通報連絡や初期消火活動などを行いました。

当日は、自衛消防隊※などの要員の役割や消火活動の手順について確認するとともに、東通消防署と連携し消火活動を行いました。

また、より実践的な訓練とするため、火災の想定事象を訓練参加者に事前に伝えない「ブラインド訓練」とすることで、有事における的確な判断力などの向上を図りました。

今後も、さまざまな状況を想定した訓練を繰り返し行い、消火技能の習熟に努めてまいります。

※ 自衛消防隊…災害発生時の初期活動や応急対策を行うために発電所内部で組織する消防隊



発電管理課
はしば れい
羽柴 麗
(岩手県西和賀町出身)

【訓練参加者より】

防火服は、ヘルメットや防火靴などを装着すると約8kgあり、内側に熱がこもりやすいことから、夏場の消火活動の厳しさを改めて実感しました。

万一火災が発生した際には、まずは自分の安全をしっかりと確保したうえで、自衛消防隊本部などに現場の状況を的確に伝えるなど、落ち着いた行動を心掛けたいと思います。



現場の状況把握に努める自衛消防隊本部



自衛消防隊による初期消火活動



東通消防署と連携した消火活動

防災訓練で「オールA」評価をいただきました

7月28日に開催された原子力規制委員会の原子力事業者防災訓練報告会※において、2019年度に国内18カ所の原子力発電所で実施した防災訓練の評価結果が報告され、当発電所は全評価項目で最高となるA評価をいただきました。

また、今回より点数による評価も行われ、得点では当発電所が最も高く、次いで当社女川原子力発電所という結果となり、当社原子力発電所の防災体制が高く評価されたものと考えております。

これに満足することなく、今回の訓練での改善点や他社の良好事例を踏まえ、今後も引き続き、緊急時における対応能力のさらなる向上に努めてまいります。

※ 原子力事業者防災訓練報告会
原子力規制委員会が各事業者の防災訓練を評価し、評価結果の説明などを行い防災訓練の改善を図るために毎年実施しているもの。
評価項目は原子力規制委員会が設定し、現場の実動訓練の実施状況、確実な通報・連絡、シナリオの多様化・難度など全11項目。